

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	「理念」に基づき、復唱している事が形骸化する事の無い様に実践しているが、今後共、その実態は確認していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	当初「平成16年5月15日」から毎日の申し送り時に、取り組んでいる。結果「自己中心の介護」で数名解雇した経緯はある。今後も、その取り組みは変わらず「利用者様を守る」
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族を含め地域の方々と季節行事「先月は夏祭り」を施設内で実施。以外に、毎月地域ボランティアの歌謡等の受入れ・他の施設・幼稚園・地区文化祭へ出展等更に幼稚園の園児を当施設へ招き交流をしている。今後も取り組んでいく。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	樹木と同じで、経年と共に地域に根が生え幹及び枝葉が出来、存在感のある施設をめざし、今後も、時間を掛けて取り組んでいく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の方に気軽に来て頂くような、雰囲気づくりを実施している。それは、玄関の鍵・施設を囲む塀及び門構えを無くし常に開放している。又、地域の方々は、施設内外で利用者の方々が過ごしている状況が把握できるのではと痛感し、今後も継続する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいる。特に、この地域は道幅が狭く車の離合が困難である為、道路に面した当施設側の敷地を「0.5m×21.15m」分を内側に引き、更に門側のフェンスは一切しない。よって、車の離合が容易にできる状況を確保して地域に貢献している。	○	当初から、左記のとおり地域貢献の方針と理念で営利法人を立ち上げている。経営側は、この法人の収益で主たる生計は維持していない。その分職員へ還元し「職員の質の確保」を主眼にしている。「社会福祉法人は納税の義務は無し」「当法人は納税額400万円程度毎年納めている」行政=国へも貢献している。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組んでいる。外部評価を「客観性」あるものに確立してほしい。前回からは改善がみられ、素直に活用している。それまでは、「主観」がまかり通っていた。調査員の「不適格者の排除」=「人選を依頼」する。費用負担130,000円を強いられているので、その価値以上の活用をしたいと願っている。	○	今後も継続して活用したい。諸物価高騰のおりから、昨年に比べて外部評価の負担軽減をして頂き、感謝している。軽減の根拠=?。説明を希望する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。運営推進会議で指導頂いた事項等を含め「職員へ周知」している。更に、周知した事項が「具現化している」可・否かの確認をも実施している。形骸化する事のないような取り組みをしている。	○	左記の会議には、ご家族の代表も毎回出席され意見を頂いている。今後は、家族会での出席率を上げ会議の状況を把握して頂き、幅広く意見交換をしていくように努める。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組んでいる。運営上等、疑義が生じたらその都度、指導を頂いている。	○	今後も継続して、指導を仰ぎたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	支援している。昨年の評価票にも記載しているが、「成年後見人制度」の事例があり「不適格者排除の申立」を行い、裁判所で受理して頂く。結果:再受理で成年後見人の変更が叶った。「実子から弁護士へ」	○	利用者の方々「余命がある限り、人としての尊厳ある生活を守る」為に、今後とも支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。介護施設では絶対あってはならない。虐待等の事例があれば機会教育をはじめ、毎月の部内教育で周知する。過去においても事例なし。防止策として、常に職員の不平不満等兆候の早期発見に努め、虐待の未然防止を図っている。	○	毎年予算を計上して待遇改善を実施している。今年度も定期昇給を含め、賞与の増額を実施した。会社の方針および運営理念が形骸化する事なく、「有言実行」の環境を今後も確立していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。「特に契約書などの締結時は、各項目ご出声を出して読み上げ、その都度、内容の理解を求め又は説明を実施」、問題がおきてからでは遅いので「家族等が納得しているか」の確認を実施している。	○	今後も「社会背景を敏感に感じ取り、随時契約書等の見直し」を実施していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。過去に「利用者の家族から対職員へ」数件あった。会社の方針、理念の逸脱で職員の主観で対応した結果だった。家族から意見を頂き、当該職員と意見交換して双方とも理解した。「迅速な対応」を旨としている。	○	「未然に防ぐ」事が重要。会社の方針及び理念を紐解き意見交換を実施している。今後も継続的に実施していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、報告している。報告のコピーを保管して、事後の対応にも備えている。報告に対する反応「手紙＝文書」を期待している。	○	今後も左記のとおり実施する。信頼を継続する手段として重要である。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。運営推進会議・家族を招き各種行事時・家族会及び面会時等で伺っている。内容は全職員に周知して、改善事項は実態を把握して「職員中心の対応可否か」具現化している。	○	左記の事項等幅広く機会を設け継続実施する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。毎月一回全体会議を設け、意見交換している。職員の出席率100%、この会議は、法定勤務時間内で実施している。当然、実働勤務時間中の職員は100%「利用者様の対応」に集中している。従って、実働の勤務時間は毎月短縮(法定は厳守)した勤務表で運営している。	○	今後も継続して実施する。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	努めている。法定人員配置以上に職員を確保し、柔軟に対応している。状況の変化に即応すべく「事務室に常時＝夜間を除く」待機している。「夜間は、各々のユニットは見通しができる構造である勤務者も2名配置して柔軟な対応が出来る＝相好に協力体制を認識している」	○	今後も継続して実施する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮している。新規採用者は経験等考慮し、指導する職員と同一勤務配置をして「ダメージの軽減」に努めている。経営上は経費が増大するが、利用者及び職員を優先した運営を実施している。	○	会社の方針「真実かどうか・みんなに公平か・皆の為になるかどうか・好意と友情を深めているかどうか」及び運営理念「楽しい我が家作り」を基本に、形骸化することなく継続実践する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。職員は、自分の「目標を持って」入社している。各々異なる目標があつて、それに応じた研修等に参加している。共通事項は、部内教育及びレベルに応じた機会教育等実施して達成出来る雰囲気は作っている。「個人の充実＝会社及び職員間でも応援している＝良い人材＝会社が充実し発展」	○ 継続して実施する事で、「職員の目標達成・会社の発展・社会へ貢献」できる。強い信念を持って事に望んでいる。結果には時間を必要とする。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組んでいる。同業者四社と左記事項を含め、介護の複雑多岐にわたる事項に貢献すべく、2か月に一回程度相好訪問を実施している。	○ 今後も継続して実施する。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	取り組んでいる。運営者自ら、管理者及び職員に感謝の気持ちを「精神的＝笑顔で有難うの声掛け。経済的＝他事業所より待遇の向上を図っている」食事会等で「聞き手」に回っている。全体会議時の意見交換等を含む事も実施している。「時間を必要とする」	○ 今後も継続して実施するが、「職員自己の性格上、方針とか理念に沿わない人は、強制する事なく退職」を促す。方針とか理念等が性格的に合致する施設は必ずあるはずと思慮。「利用者様と当該職員。更には他の職員」共々不幸になると判断している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努めている。「笑顔と声掛け」時間の許す限り実施している。現場の状況「利用者の笑顔・職員間の連携及び職員が利用者及び家族への対応、更に清潔感・危険な事項の早期発見等」複雑多岐にわたり把握する事を目指している。	○ 運営者の関心度合いを、職員へ「自らの行動」で示すことも必要と思慮する。今後も継続実践する。子曰：「其身正不令而行・其身不正雖令不従」=其の身正しければ、令せずとも行われる。其の身ただしからざれば、令すとも従われず。この気持ちの「万分/壹」と思い日々取り組んでる。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	努力している。施設内で「利用者が如何に過ごしているか」で不安を解消。家族から、本人自身が「施設でどの様に過ごす事を希望」かを聞き出して、確認した対応を優先する。勤務時間を気にせず状況の変化には迅速に対応している。「本人が眠りに就くまで、側にいる体制」を取っている。	○ 左記の結果、高齢者は「おかあちゃん」と声を日常から発する事で信頼関係が出来る。今後も継続して、本人に「適した対応」を実施する。この事例は「百五歳の方が、当施設で三年六か月間過ごされ、日々の会話の中で連呼＝おかあちゃん・おかあちゃん」
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	努力している。家庭に向くか、当施設を見学時に傾聴している。	○ 今後も継続して実施する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	勤めている。意向を100%を受け入れるには「如何にしたら良いか、あらゆる角度から検討」して納得を頂いている。	○	今後も継続して実施する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	工夫している。事業所見学を数回して頂き雰囲気等に馴染みながら、自然に入所して頂く。	○	今後も継続して実施する。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	築いている。理念に基づき、共同生活という「意識の醸成」努めている。	○	今後も継続して実施する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	築いている。主たる介護者＝家族である。職員は意見等を伺い、専門的に支援している。	○	今後も継続して実施する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援している。毎月の便り・面会や電話等できめ細かに実施している。	○	今後も継続して実施する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。本人を含め、家族等から「本人が輝いていた時代背景」を聞きだし実施している。	○	今後も継続して実施する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めている。非常に時間を要するが、各職員意識して実施している。	○	今後も継続して実施する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしている。現実に「退所後入院されても、各職員が出向き声掛けをした」。亡くなって、葬式の代表者挨拶の中で「感謝の言葉」を頂いた。これに、驕ることなく今後も「事務的+情」この「情」の割合を「大」にしたい。「出焼香も一番に、各界の人々「銀行等の関係者より先に併せてお参りさせて頂き感謝している現状」	○	今後も継続して実施する。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討して、実施している。家族等の情報又本人の日常生活を組み入れ、全職員が理解している。	○	今後も継続して実施する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。家族等の情報又本人の日常生活を組み入れ、情性に流れる事の無い様に、全職員が理解している。	○	今後も継続して実施する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている。看護師が常勤し、個人ごとに「看護記録」で明示し、全職員が情報を共有し把握に努めている。	○	今後も継続して実施する。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成している。状況の変化に応じ、意見交換し全職員が共有している。	○	今後も継続して実施する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成している。各職員が「介護計画」の重要性を認識している。この介護計画に基づき実施して、変化も見逃す事の無い様に対応している。「申し送り・医師の往診前の実態把握及びユニット会議等」の意見等で見直し又は作成している。	○	今後も継続して実施する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。特に、介護予防等を含め、全職員が意見交換しながら実施している。	○	今後も継続して実施する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援している。単一の施設である為「自宅でしていた生活状態の把握」に努めている。更に要望等、積極的に受入れ臨機応変に、実施している。	○	今後も継続して実施する。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	支援している。例:運営推進会議の構成員又は老人会長で各種ボランティア活動をしている方=(当施設でも活動に来ている)等、多岐にわたって、指導を受けている。	○	今後も継続して実施する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	支援している。現在、支援の必要性は無い。今後は状況に応じて対応したい。	○	今後、必要に応じ実施する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後は、協議していく。現在、地域包括支援センターとの協議は運営推進会議関連のみだが、今後は状況の変化に応じ左記のとおり実施したい。	○	今後、必要に応じ実施する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。常に状態を職員全員が共有し、医師と連携して実施。特に、毎週当施設にその医師が往診に来て頂き、左記のとおり実施している。医師は、内科医・歯科医及び心療、神経、精神医の三名の医師から適切な医療を受けている。	○	今後も継続して実施する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している。設問43＝のとおり。一昨年来、同様に実施している。	○	今後も継続して実施する。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	支援している。一昨年同様、常勤看護師が健康管理等実施している。看護記録を独自に作成保存している。	○	今後も継続して実施する。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携、実施している。左記以外に職員が勤務時間外を含む、自発的に面会に出向き、声掛け・洗濯物等取替えを行っている。	○	今後も継続して実施する。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	共有している。一昨年の介護保険法改正時、以前の3月31日までに、法改正後の対応として、家族から「医療連携体制同意書」に「急性期」「慢性期」「重介護」「終末期」及び「入院時」について得ている。細部事項はその時点で協議している。	○	今後も継続して実施する。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	準備している。現実には、家族・職員で変化等を事前に取りまとめ往診当日医師の判断を求め実施している。今後は必ず随時、起こるであろうと思慮している。	○	今後も継続して実施する。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めている。左記事項は、情報提供「＝家族の同意を得て」実施している。	○	今後も継続して実施する。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	損ねるようなことはしていない。但し、今後も形骸化する事なく、機会教育と併行して確認等していきたい。	○ 今後も継続して実施する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	支援している。特に、「使用出来る金額」をご家族と調整して考慮。例：献立作成時は、本人へ「何が食べたい・食材はどんな物を入れる」といった様に自己決定の支援をしている。	○ 今後も継続して実施する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。方針及び理念を「判断基準」に、「事務的」+「α」即ち「α」の部分に「情」を加算＝職員に負担をかける程度。総合的に「バランス」を保ち具現化している。「外気浴・食事・特に朝食・入浴等」	○ 今後も継続して実施する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族と調整して「被服等は四季折々、家族と調整」をして身だしなみ等も実施。理・美容については、ボランティアの方々のご好意を受ける利用者さんと、自分の好みの店で済ます人もいる。無論家族の意見を取り入れ実施。	○ 今後も継続して実施する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「共同生活」との観点から、利用者さんと職員は「食事等、生活に係る全ての事項について」実施。更に、ファミリーレストランへ出向き食事等も楽しんでいる。	○ 今後も継続して実施する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	支援しているが、たばこの嗜好者については入所をお断りしている。お酒は日頃たしなむ人はいないが、正月など祝い膳には考慮している。	○ 特に、喫煙者の入所は今後共、お断りする。それ以外は積極的に支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	支援している。個人の排泄表で「排泄リズムを把握」して「オムツを濡らす事」の無い様に「トイレ誘導」をしている。併せて「オムツの使用が激減」して家族にも貢献している。	○	今後も継続して実施する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	支援している。時間等は一応決めているが本人の気分・身体的状況を優先している。特に、頭部からの異臭等不潔にならない様に配慮している。	○	今後も継続して支援する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	支援している。昼食後は全員ではないが、昼寝をする人もいる。「体位は右側臥位になる様に＝消化を促す」夜間は、寝付くまで職員と、ひと時を過ごし、状態をみながらベッドへ誘導する。特に夜間の就寝時間は強制しない。	○	今後も継続して支援する。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	左記のとおり支援している。年間行事を含め、本人の状態を考慮。基本は、個人を尊重して個別に実施。但し、誕生会・初詣・花見等団体で実施する事もあるが、中には、参加拒否する人はこれを尊重する。	○	今後も継続して支援する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。お金の所持は禁止。必要に応じ所持して、職員が見守りしながら使っている。施設内の夏祭りでは、模擬売店を開き、金額を決めて所持して頂き、自由に買い物を楽しんだ処の様子が伺えた。	○	今後も継続して支援する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	支援している。平屋の施設で、施錠していない。従って、気軽に各ユニットの方々は朝食後又は夕食後庭先に出て家庭菜園の状況、更に山肌に沈む夕日・四季折々の情景を感じとって頂いている。思い思いの時間を楽しんでいる様子は、笑顔が伺える。	○	今後も継続して支援する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	支援している。年齢(64歳～)、要介護(I～)及び経済的(以前の生活程度)等の背景を考慮している。	○	今後も継続して支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。電話等の使用制限と併せ料金も徴収していない。家族からは本人宛のファックスで意思の疎通を図ることが出来る様にしている。	○	今後も継続して支援する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	工夫している。訪問時間の制限を気付かれない様に、何時でも、職員は笑顔で対応。談話等が気軽に出来る様に「ソファセット」を設置している。	○	今後も継続して支援する。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。絶対あってはならない行為。但し、家族および医師の意向に基づき、実施しなければならない場合は、最小限に留める。全ての職員は認識している。今迄は、その事例はない。今後事例が発生した段階で再度、機会教育等で周知すると共に、関係書類は保存する。	○	今後も継続して、取り組む。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。日中でも玄関は開放している。家族から、夏場は蚊が来ないか？と心配して頂く。徘徊の兆候をいち早く察知して職員が個別に対応する。	○	今後も継続して、取り組む。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全に配慮している。朝＝夜勤者から、日勤者へ申し送り、夕方＝日勤者から夜勤者へ、確実に状態等把握して、危険を未然に防止している。特に各ユニットで状態の把握、安全等含め会議で全職員は認識している。更に機会ある度に、現場で確認を実施している。	○	今後も継続して、配慮して行く。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組みをしている。特に、異食等「ナイロン製：グローブ・洗剤及び排泄便等」の保管場所及び排泄の確認・保管・管理の取り組みをしている。	○	今後も継続して、取り組む。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	取り組んでる。全職員が、朝・夕の申し送りで左記の情報を個別に的確に把握。常に危機感を持って、見守り等実施している。	○	今後も、継続して取り組む。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	行っている。事例ある度に、頻繁にはないが「利用者さんの命を守る意識を再確認」し醸成を図っている。	○	今後も、定期的行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々から協力を得ている。電話番号も控えさせて頂き、継続して友好関係を図りたい。特に、火災発生時の初期消火、避難誘導訓練は年二回以上実施している。喫煙している職員は「採用していない」、全職員は火災を如何にしたら発生させないかを認識している。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	対応策を話し合っている。家族と連絡を取り合い、起こり得るであろう事柄を、全職員がその兆候を読み取り、情報交換をしている。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	対応に結びつけている。全職員は常に把握している「早期発見・早期連絡及び早期受診」の認識で対応している。更に、情報をも共有している。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認に努めている。全職員は「薬は毒」であることの知識を書物を含み、医師及び看護師から機会教育等を受け認識している。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる。全職員は、排泄記録等又朝夕の申し送り時に、状態を把握。便秘の原因・予防策等は医療の範囲と位置づけ、取締役施設長である看護師が機会教育を実施。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援をしている。歯科医師の往診時に左記事項について、職員は指導を受け実施している。効果は上がっている。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援をしている。献立は利用者の方々を中心に希望を聞き、その中で栄養バランス、水分量等を修正して、一日を通じて確保している。場合によっては、医療行為で確保している。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	実行している。全職員が「事の重大性＝手遅れになると、職員の家族まで感染する事を」理解している。他施設の事例等を引用して機会教育を実施している。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理等に努めている。調理師資格を持つ職員と看護師で取締役施設長が指導して食材の鮮度等を常に確認している。当初から外国産、特に中国産は使用していない。牛肉は和牛としている。確認は、購入レシートで実施。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	工夫している。この施設は、地域・近隣の家屋に溶け込む様に平屋の一般住宅。建物の周囲も目隠し塀等する事なく、施設の敷地も入口付近は門扉もなく、更に、敷地を地域(市道)に一部を提供している。	○	北隣の住民「一世帯」から、目隠し塀にして欲しいとの意見があったが、運営推進会議で「目隠し塀は必要ない」と全員一致で決まった経緯がある。今後も、幅広く意見等を頂き継続して実施。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。例: 老人施設＝「汚い・臭い」の代名詞を払拭する事を、各職員は認識している。従って、「臭気の澱み等」を解消すべく天窓の開閉で新鮮な空気を入れ替えをしている。西側の居室は簾とゴウヤ(日除け)栽培で季節感を採り入れ又リビング内も簾を採り入れている。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。共用空間の中で、各ユニットに「和風(4.5畳)以外に洋風(5人掛け)で独りで「詩」を創作する時利用。家族の面会等で過せる居場所を工夫して、確保している。	○	今後も、左記事項の空間を工夫を継続して実施する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。各居室とも本人の想いを家族が尊重し、テレビ・絵画及びベッド等使い慣れた物を持ち込んでいる。それを、各職員は家庭の雰囲気を出す工夫に取り組んでいる。表札は「様」扱いでなく、自宅に準じて表している。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに実施している。室内の温度調整は「職員」でなく「利用者の体調」を考慮して行っている。又、室内の空気の澱みは、天窓等の開閉で実施。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。浴室は、車椅子利用者でも浴槽に肩まで浸かれる様に「リフトを設置」更に玄関内部には、腰を掛けて靴が履ける様に工夫している。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	工夫している。詩集創作・草花作り・塗絵及び家庭菜園での育苗等に職員が付き添い、自立して暮らせるように実施している。	○	今後も、左記事項は継続して実施する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	活かしている。「ウッドデッキ」から夕日が沈む光景を觀賞又は「庭先」での外気浴、更にはバーベキュー大会等で楽しんでいる。	○	まだまだ、工夫して生活を豊かにする余地はあると思慮。今後の課題である。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

『特に力を入れている点』

毎朝の申し送り後に、「会社の方針及び運営理念」を全職員が「復唱」している。これは「自己中心的な介護」から「利用者中心の介護」へ全職員の身体へ浸透する事と併せ実践することが目的。重要な事は、毎日毎日の積み重ねと併せて、形骸化する事の無い様に機会教育を含む「実践の確認」は怠る事はしない。当初から現在、更に今後も取り組む所存で、非常に時間を必要とする事は事業所として認識している。因みに会社の方針は「真実か→どうか」「皆に公平か→どうか」「皆の為になるか→どうか」「好意と友情を深めているか→どうか」以上4項目を実践していく中での判断基準である事は「毎朝：復唱で全職員は確認」している。